

平成を振り返る

出雲市の主なできごと

出雲大社「平成の大遷宮」始まる



平成20年、国宝の出雲大社本殿の大屋根を約60年ぶりに葺き替える「平成の大遷宮」が本格的にスタート、本殿が59年ぶりに一般公開されました。平成31年3月の終了まで多くの観光客が訪れました。

新「出雲市」の誕生



平成17年3月、出雲市・平田市・佐田町・多伎町・湖陵町・大社町の2市4町が合併しました。平成23年10月の斐川町との合併により、人口17万5千人、面積624km²の新しい出雲市が誕生しました。

国道9号出雲バイパス、山陰自動車道の開通

国道9号の渋滞の緩和などを目的として、昭和49年度から事業を開始した国道9号バイパス



が全線開通しました。平成21年11月、山陰自動車道の斐川IC(インターチェンジ)から出雲ICまでの13.6kmが開通。平成31年3月17日には、出雲多伎ICから大田ICまでの9kmを結ぶ「多伎朝山道路」が開通しました。これにより観光振興や市内の渋滞緩和などへの効果が期待されます。

斐伊川放水路竣工

洪水時に斐伊川の水の一部を分流させ、下流部の水位を低下させて洪水を防ぐ斐伊川放水路が完成しました。昭和50

年に「斐伊川・神戸川の治水に関する基本計画」が発表されてから約40年の歳月をかけて完成しました。



平成18年7月豪雨災害

平成18年7月17日から19日にかけての集中豪雨は、3人の尊い命を奪ったほか、市内各地に大きなつめ跡を残しました。消防団が人命救助や避難誘導に活動したほか、延べ約1,500人のボランティアが復旧に大きく貢献しました。



多文化共生の推進

外国籍の人の増加に伴い、平成28年6月に「出雲市多文化共生推進プラン」が策定されました。現在、4,000人を超える外国籍の人が暮らしています。学校や職場で生活支援、情報発信等のコミュニケーション支援が行われるとともに、地域や民間団体でも積極的に多文化共生の取組が行われています。



出雲 地域

大学駅伝がスタート

平成元年に「平成記念 出雲くにびき大学招待クロスカントリーリレーフェスティバル」として開催され、20チームが参加しました。平成6年から「出雲全日本大学選抜駅伝競走」の名称になっています。

現在では、箱根駅伝、全日本大学駅伝とならぶ、学生三大駅伝の一つとして、全国に知られることとなりました。



合併前の旧市町の できごと 振り返ります

佐田 地域

県道湖陵掛合線 ドラゴンロード・オ谷トンネル開通

平成11年に、佐田町原田地内にドラゴンロード、平成16年には佐田町八幡原地内にオ谷トンネルが開通し、国道9号と国道54号を結びました。

また、松江尾道線と山陰道のアクセス道としての役割を期待されています。



平田 地域

治水とまちづくり

水害常襲地帯である平田の治水対策は、平成元年に平田船川(湯谷川工区)広域河川改修事業の第二期事業が認可され、市街地内の改修が始まりました。事業の進捗により「水害の解消」と共に、平田環状線の開通や中ノ島新市街地の創出といった「都市基盤の整備」も進みました。現在も施工中であり、早期の完工が待ち望まれています。



湖陵 地域

クアハウス湖陵オープン

クアハウス湖陵は、温泉開発ユートピア事業の中心施設として、平成4年4月に中国地方ではじめての本格的なクアハウスとしてオープンしました。

平成29年3月をもって25年の歴史に幕を閉じましたが、たくさんの方々の健康増進に寄与してきました。



多伎 地域

海辺の交流舞台 道の駅「キララ多伎」オープン

平成10年4月25日、道の駅「キララ多伎」がオープンしました。目の前に広がる日本海は絶景で、平成13年にはキララ多伎周辺からみえる夕陽が『日本の夕陽百選』に選ばれました。県内外から多くの方が訪れる人気の観光スポットとなっています。



斐川 地域

荒神谷史跡公園開園

荒神谷史跡公園は、昭和59年に荒神谷で銅剣が発掘されたことに伴い、その歴史景観を伝えることを目的に、平成7年に整備されました。その後、平成10年に青銅器が国宝指定。平成17年に荒神谷博物館が開館しました。ハスの名所としても多くの方が訪れる公園となっています。



大社 地域

JR大社線の廃止

平成2年3月31日、JR大社線が約80年の長い歴史に幕を閉じました。その後、旧大社駅舎は平成16年に国の重要文化財に指定されました。

現在では、駅舎を活用したイベントも行なわれ、多くの市民に親しまれています。

